令和３年度事業報告書

（令和３年４月１日～令和４年３月31日）

学校法人　上宮学園

学校法人　上宮学園

Ⅰ.法人の概要

1.建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することにあり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の　歴史はわずか 130 年であるが、その 130 年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の　いたらぬ里は　なけれども　眺むる人の　心にぞ　澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌　としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巣立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。　小さなことにくよくよしていて、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して　勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する　時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間　ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を　多くの若者に分け与えて、130 年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2.法人の沿革

上宮高等学校は、明治 23 年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来 130 年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切にし、きめの細かい教育を推進している。

明治 23 年（1890 年）大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く
明治 34 年（1901 年）学制変更により修業年限 4 年を 5 年に変更
明治 39 年（1906 年）中学校と同等の認定
明治 45 年（1912 年）財団法人上宮中学校設立許可
昭和 4 年　（1929 年）鉄筋本館竣工
昭和 10 年（1935 年）定員 1250 名認可　　鉄筋新校舎の建設案成る
昭和 14 年（1939 年）新校舎（現 2・3・4 号館）竣工
昭和 22 年（1947 年）新制上宮中学校発足
昭和 23 年（1948 年）新制上宮高等学校発足
昭和 26 年（1951 年）学校法人上宮学園へ組織変更認可
昭和 36 年（1961 年）校祖 750 年遠忌式
昭和 38 年（1963 年）高等学校志願者 5259 名に達す　　5 号館竣工
昭和 42 年（1967 年）中学校の募集停止　　太子町鉄骨校舎着工
昭和 44 年（1969 年）太子町校舎高 1 授業開始
昭和 49 年（1974 年）高 2　2 コース制実施
昭和 54 年（1979 年）太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式
昭和 56 年（1981 年）総合体育館竣工式　　90 周年記念式
昭和 59 年（1984 年）上宮高等学校 6 号館竣工
昭和 60 年（1985 年）上宮中学校復活開校（於、太子町）
上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工
昭和 63 年（1988 年）上宮高等学校太子町学舎開設
平成 1 年　（1989 年）上宮高等学校太子町学舎校舎竣工
平成 2 年　（1990 年）創立 100 周年記念式典
平成 3 年　（1991 年）上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立
平成 5 年　（1993 年）上宮中学校が上宮太子中学校へ変更
上宮中学校開校（於、天王寺）
上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝
平成 22 年（2010 年）上宮学園創立 120 周年記念式典
平成 23 年（2011 年）校祖 800 年大遠忌
上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化
平成 24 年（2012 年）上宮太子高等学校男女共学化
平成 26 年（2014 年）上宮高等学校 3 年　平岡卓
冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典
平成 30 年（2018 年）上宮中学校と上宮太子中学校が合併し、上宮学園中学校へ校名変更
令和　元年（2019 年）南グランドに新校舎竣工　上宮学園中学校と上宮高等学校　新校舎へ移転
令和　2 年（2020 年）旧校舎解体　グランド竣工

3. 設置学校（所在地・コース等）

ⅰ上宮高等学校　〒543-0037　大阪市天王寺区上之宮町 9 番 36 号
全日制　普通科　パワーコース・英数コース・プレップコース

ⅱ上宮太子高等学校　〒583-0995　大阪府南河内郡太子町太子 1053
全日制　特進Ⅰ類（国公立大学）コース、特進Ⅱ類（難関私立大学）コース、総合進学（有名私立大学）コース

ⅲ上宮学園中学校　〒543-0037　大阪市天王寺区上之宮町 9 番 36 号
特進コース・G コース

4. 校地・校舎面積

名　　称	校地面積　㎡	校舎面積　㎡
上宮学園中学校・上宮高等学校	25,557	25,503
上宮太子高等学校	39,504	24,176
合　　計	65,061	49,679

5. 入学定員

名　　称	学則定員（各 3 学年合計）
上宮高等学校	2, 280
上宮太子高等学校	840
上宮学園中学校	360
合　　計	3, 480

6. 生徒数・学級数　（令和 3 年 5 月 1 日現在）

名　　称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1 年	688	18
	2 年	648	17
	3 年	557	16
上宮太子高等学校	1 年	153	4
	2 年	184	5
	3 年	178	5
上宮学園中学校	1 年	107	4
	2 年	111	3
	3 年	98	3
合計		2724	75

7. 役員・評議員　（令和３年４月１日現在）

ⅰ役員（定員　理事：7名、監事：2名）

理事７名（うち、理事長１名、理事６名）監事２名

理事長　田中裕史（上宮学園長）

理事　　山縣真平（上宮学園中学校・上宮高等学校長）

寺澤久弥（上宮太子高等学校長）

甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）

井桁雄弘（総本山知恩院責任役員　執事長）

川中光教（浄土宗代表役員　宗務総長）

山北光彦（浄土宗大阪教区長）

監事　　木田眞敏・毛利虎之助

ⅱ評議員　（定員 15 名）

評議員 13 名　（うち、理事兼任７名）

殿井鉄夫（法人職員）

松井保（法人職員）

原田和成（法人職員）

横倉廉幸（卒業生）

神田眞晃（卒業生）

田中裕史（上宮学園長）

山縣真平（上宮学園中学校・上宮高等学校長）

寺澤久弥（上宮太子高等学校長）

甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）

川中光教（浄土宗代表役員　宗務総長）

山北光彦（浄土宗大阪教区長）

井桁雄弘(学識経験者)

水谷川源昇（学識経験者）

8. 教職員（令和３年５月１日現在）

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高等学校	80	11	55	26	172
上宮学園中学校	21	2	9	2	34
上宮太子高等学校	34	0	24	9	67
合計	135	13	88	37	273

Ⅱ.事業の概要

浄土宗を母体とする本学園は、法然上人の仏教精神を教育の根底において、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」の基、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動できる生徒を育成するために、教授法の改善を推進し、より質の高い教育の実践をはかる。

令和元年度に新校舎が完成し、新たな教育環境の整備を進める。

保護者会、同窓会及び、教育振興協力会の支援・協力による ICT 環境の整備、リモート事業を活用してのコロナ対応、デジタル採点等の業務の合理化などの取り組みを実施する。

今後に向けても、その長い歴史にとらわれることなく、時代に応じた改革を遂行し、更なる精進努力を続けるとともに、社会貢献できる人づくりを目指す次第である。

1.法人

令和 3 年度　第 1 回理事・評議員会
日時　令和 3 年 5 月 27 日（木）
会場　評議員会：多目的室　　理事会：保護者会室
議案第 1 号　令和 2 年度事業報告について
議案第 2 号　令和 2 年度決算（案）について
議案第 3 号　令和 3 年度予算（案）について
議案第 4 号　令和 3 年度特待生について
議案第 5 号　任期満了による役員改選について
議案第 6 号　その他について

令和 3 年度　第 2 回理事会・評議員会
日時　令和 3 年 12 月 16 日（木）
会場　評議員会：多目的室　　理事会：保護者会室
議案第 1 号　校内役員人事について
議案第 2 号　令和 3 年度中間報告（財務面・教務面）について
議案第 3 号　令和 3 年度第 1 回補正予算（案）について
議案第 4 号　学則（カリキュラム）の変更について
議案第 5 号　その他について

令和 3 年度　第 3 回理事・評議員会
議案日時　令和 4 年 3 月 30 日（水）
会場　評議員会：多目的室　　理事会：保護者会室
議案第 1 号　令和 4 年度事業計画について
議案第 2 号　令和 4 年度予算原案について
議案第 3 号　法人諸規定制定について
議案第 4 号　その他について

2.上宮高等学校

ｉ.執行部関係

【上宮学園中学校共】（令和 3 年度）

校　　長	山縣　真平	中学教務部長	橋本　宗隆
副　校　長	殿井　鉄夫	生活指導部長	伊地田龍也
高 校 教 頭	栗栖　有文	進路指導部長	三吉　宏和
中 学 教 頭	末金　和夫	入試対策部長	細川　貴司
高校教務部長	西岡　信教		

【基礎データ】

生徒数（年初数）

1 年生　688 名、18 クラス、クラス平均生徒数 38.2 名

2 年生　648 名、17 クラス、クラス平均生徒数 38.1 名

3 年生　557 名、16 クラス、クラス平均生徒数 34.8 名

合計 1893 名、51 クラス、男子 1203 名、女子 690 名、男女比 64：36

転退学者等

1 年生　退学者 26 名(男子 19 名、女子 7 名)、うち転学者 20 名(男子 13 名、女子 7 名)

2 年生　退学者 18 名(男子 11 名、女子 7 名)、うち転学者 16 名(男子 10 名、女子 6 名)

3 年生　退学者 8 名(男子 6 名、女子 2 名)、うち転学者 7 名(男子 5 名、女子 2 名)

除籍者 1 名（男子 1 名　死亡による）

合計　退学者 52 名(男子 36 名、女子 16 名)、うち転学者 43 名(男子 28 名、女子 15 名)

昨年度比　＋31 名（2.5 倍)、全生徒数に対する割合は 2.7%（過去の全国平均 1.5%）

教員数

合計 149 名

専任教諭 65 名、常勤教諭 16 名、常勤講師 11 名、非常勤講師 57 名

定年退職者　山縣真平、河野正和、阪本昌彦

【教務関係】

新型コロナウイルス感染症による蔓延防止等措置、緊急事態宣言を受け、厳しい制約を受けながらも対面授業を継続したが、行事についてはことごとく、中止または延期となった。新校舎での授業等では、プロジェクターを使った授業風景が普通となり、先生方が手に iPad 等を持って授業に向かう姿を多く見かけるようになった。プロジェクターの使用方法も多数存在し、先生方がその力量と授業形態に応じて、使い分けることが出来るシステムであったことも幸いし、ＩＣＴ化が順調に進捗しているように思える。

広報戦略係においては、広報活動の充実、塾本部への訪問、シンガポール・バンコクの日本人学校への訪問を企画していたが、新型コロナウイルス感染症対応のため、オンラインでの説明会を除くと十二分には実施出来なかった。そんな中、バンコクより受験生 1 名があった。

e ラーニング係においては､新校舎における ICT の有効利用､新しい時代の教育環境の構築に向けて、各種調査・研究・実践を継続し、その結果を十二分に授業等に活かし、順調にＩＣＴ環境の整備に寄与している。

教育相談係や特別支援教育コーディネーターを置き、登校に不安のある生徒や、配慮を要する生徒

についての生徒本人や保護者、担任等からの相談に応じて、ケア委員会を開催するなど、適切な対応を積極的に行った。年を追うごとに、対象生徒数は増加している。
高大連携入試・指定校推薦入試合格者に対して、外国人留学生（38 名）との交流を通して、自分の将来を考えるきっかけになるように、エンパワーメントプログラムを実施した。参加者は 227 名であった。
退学に至った理由は、病気 11 名、死亡 1 名、学業不振 2 名、不登校 19 名、学校不適応 11 名、問題行動 3 名、その他 5 名であった。退学者は例年 20 名程度であるのに対し、今年度は 52 名となったことは特筆すべきことである。他校でも同様の現象が起きているようであり、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う各種の制約が影響を与えていると考えられる。
特に 1 年生の退学者が 26 名にものぼっており、級友と馴染む機会を逸したために退学に至るケースが目立つ。スムーズに仲間づくりができるような方策を講じる必要があると思える。

【大学等受験対策】
校内予備校の取り組みとして、例年、1 年生の 2、3 学期に大学合格基礎講座、2 年生に大学合格準備講座、3 年生の 1、2 学期に大学合格講座を実施してきた。
これらは、本校勤務で予備校との兼任の講師と別に採用した予備校講師が、平日 17 時 15 分から 2 時限（1 コマ 70 分）で実施しており、生徒の成績向上・進路保障にも大きく寄与していると思われる。保護者からも安価であること、学校内で実施していることで好評を得ている。
また、英検合格講座（70 分×10 回）を年 3 回の試験に合わせて開講した。
それらは進路指導部の監督の下、順調に実施されており、講座費用は生徒負担で運営されているため、毎年黒字を計上している。

【新型コロナウイルス感染症関連】
新型コロナウイルスの感染状況は、世間の感染者の増減と同じ動きを見せながら推移し、感染した学校関係者は、4 月に生徒 2 名、教職員 1 名、7 月に生徒 2 名の感染があり、9 月を中心とした第 5 波で生徒 35 名、教職員 2 名、1～3 月にかけての第 6 波では、生徒 143 名、教職員 8 名が罹患し、最終的に今年度の感染者の合計は、生徒 182 名、教職員 11 名となった。学級閉鎖・学年閉鎖を実施したこともあったが、全校を休校にすることなく、乗り切っている。感染者はいずれも重症化することなく、復帰を果たしている。

【修学旅行】
昨年度は岐阜飛騨地方・三重県への 2 泊 3 日の日程で実施したが、今年度は、12 月に長崎・福岡への 3 泊 4 日の日程で実施し、603 名が参加した。第 1 隊のみ天候に恵まれなかったが、それ以外は好天に恵まれた。長崎市内の自主研修・ハウステンボス内での自由散策等、生徒の満足度は高かったと思われる。新型コロナウイルス感染症対策も考え得ることは実施し、結果的に大過なく実施することができた。

【語学研修等】
今年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、以下の海外等における語学研修等は実施できなかったが、オンライン英会話のみ前後期延べ 65 名の参加者があった。

7 月　サマーイングリッシュプログラム
8 月　カナダ語学研修・フィリピンセブ島語学研修・イギリス語学研修
3 月　オーストラリア語学研修・グローバルコミュニケーション京都

【高校入試関連】
4 回の入試説明会等の参加者総数は、
生徒 2227 名（昨年度比＋434 名　一昨年度比－487 名）
保護者等 2120 名（昨年度比＋429 名　一昨年度比－500 名）
合計 4347 名（昨年度比＋863 名　一昨年度比－987 名）
となり、新型コロナウイルス感染予防のための人数制限と、大阪の同感染症蔓延の状況を鑑みた奈良県からの受験生の減少のために大幅な減少した昨年度からは、ずいぶん盛り返したと思われ、人数制限が実施されなければ、例年並みの参加者となったのではないかと思われる。
インターネット上でのオンラインによる個別相談会は 4 回、計 45 組の参加者があった。また、オンラインによる入試説明会の視聴は可能な状態になっていた。
詳細は、入試対策部からの報告に譲るが、
入学考査受験者数 1833 名（昨年度比―88 名、一昨年度比－330 名）
入学者 525 名（男子 336 名、女子 189 名　内部進学者 88 名・原級留置 1 名を除く）
であった。

ⅱ.広報関係
〇2022 年度入試結果
志願者数 1867 名、受験者数 1833 名（欠試者 34 名）
合格者数 1756 名（専願 391 名・併願 1365 名）
入学者数 528 名

＊2021 年度入試結果
志願者数 1956 名、受験者数 1928 名
合格者数 1870 名（専願 379 名・併願 1491 名）
入学者数 614 名

〇入試説明会（自校で 4 回実施）
4 回で 2273 組の受験希望者に参加いただき、
前年度の参加者数 1825 組から 448 組増となりました。
（人数制限の数を前年度より増やして対面で実施）
今年度は説明会後の個別相談を実施。第 4 回の説明会後に 2 回、見学希望者に対して校内見学を実施。
オンライン個別相談会を 3 回実施（中学受験 5 組・高校受験 45 組）

〇塾対象説明会
シェラトン都ホテル大阪にて開催。（1 塾 1 名での参加。前年度同様、座席の間隔をあけ密を避けての実施。）前年度同様に 9 月の実施で 164 名/162 塾、参加いただきました。（前年度 200 名/200 塾）
（2022 年度は塾の先生を自校に招いて実施する予定）

〇私学展
8/13（金）・8/14（土）・8/15（日）に開催（天満 OMM ビル）
ブース相談件数は 1 日目　133 名、2 日目　116 名、3 日目　129 名
担当人員は 8/13（金）が 12 名・8/14（土）が 13 名・8/15（日）が 12 名
アウトソーシングの 3 名先生を含む。　メインブース 2 名、別会場ブース 3 名、案内 4 名で対応。

〇総括　2022 年度入試　中高入試対策部

中学入試は、適性検査・自己アピールの成果があまり出ていないように感じており、それに代わる英語入試などの新しいタイプの入試を今後検討する必要があるように思われる。

また、塾の先生方に新校舎になってから一度も見学をしていただけていない状況が続いている。学校の雰囲気を直に見ていただき塾生に伝えていただくために、塾対象説明会をホテルでの実施から 2022 年度は自校での実施する予定である。（経費削減にもつながる）

昨年度と同様コロナウイルス感染症の影響に伴い、塾訪問など例年通りの対応が出来ていない状況である。入試については、学校施設規模に合わせた定員を確保しなければならないといった難しい課題があるが、教育相談基準を見直すなどの工夫をすることにより、目標としていた入学者定員を確保することができた。結果的に入学者定員数はクリアたが、2022 年度入試の対応が今後の入試にどのような形で影響してくるのか、臨機応変に対応していくにはどうすればよいか課題が山積みである。

ⅲ.進路関係

1. 大学等進学状況の概況

令和 3 年度年度卒業生（共学 9 期生）は 549 名（昨年度 637 名）。学年全体の現役合格率（大学・短期大学・専門学校合格）は 95.1%（昨年 94.3%、一昨年 91.0%）で 5 年連続の上昇。共学化以来の 9 年間で最も高い率であった。

2. 令和 4 年度入学入試を取り巻く環境について

1）昨年度より大学入試改革による大学入試区分の名称変更

ただし、私学では名称が混在して使用されることもある。

①AO 入試　⇒ 総合型選抜

②推薦入試　⇒ 学校推薦型選抜（スポーツ推薦入試・連携指定校制推薦入試・公募制推薦入試）

③一般入試　⇒ 一般選抜

④「評定平均値」⇒「学習成績の状況」に呼称変更

2）コロナウイルス感染拡大の大学入試などへの影響

①先行き不安から年内入試（推薦入試）の志願者増で高止まり。

②本校では「連携・指定校制推薦入試」での出願が文系・理系ともに 50%を超える。

3）18 歳人口が減少するなか、私立大学では、「補欠からの繰り上げ合格」および「追加合格」の増加を抑えるため合格者数を増加させ全体的に易化。結果的に。本校の私立大学合格者も卒業者数が減しているなかで全体的に維持または増加した。（4 の 2 表）

例：「関西大学」：複数回の繰り上げ合格を発表。

2/27 に第 1 回目 1,350 人、3/25 に第 2 回目 20 人の繰り上げ合格発表

（昨年 2/27　1599 人、3/25　547 人）

「近畿大学」：複数回の繰り上げ合格・追加合格を発表

2/24 に第 1 回目 706 人、3/19 に第 2 回目 372 人の繰り上げ合格発表

（昨年 2/25　985 人、3/19　526 人　さらに追加 900 人）

等、「補欠からの繰り上げ合格」「追加合格」が昨年よりも減少傾向にあり、特に 2 回目（3 月後半）の人数が減少している。

3. 本校の令和 3 年度卒業生の最終の進学先の状況

令和 3 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他＊
549	482	10	19	1	37
割合	87.8%	1.8%	3.5%	0.2%	6.7%

＊「就職者」内訳：海上自衛隊

＊「その他」は進学準備・留学準備等（大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む）

令和 2 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他＊
637	549	7	35	4	42
割合	86.2%	1.1%	5.5%	0.6%	6.6%

＊「就職者」内訳：海上自衛隊・(株）イエローハット・(株）アイ・ステーション

＊「その他」は進学準備・留学準備等（大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む）

4. 大学別合格者について

1）国公立大学合格者 30 名（昨年度 35 名）　＊現役・過年度生を合わせた大学別実人数

国公立大学合格者								
令和 3 年度			令和 2 年度			H31 年度		
（卒業生数　549 名）			（卒業生数　637 名）			（卒業生数　660 名）		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	和歌山大	7	1	和歌山大	5	1	和歌山大	4
2	大阪公立大	5		大阪教育大	5		大阪市立大	4
3	神戸大	2	2	三重大	3	3	大阪府立大	3
	和歌山大県立医大	2		大阪府立大	3	4	大阪大	2
	徳島大	2	5	大阪市立大	2	5	神戸大	2
6	大阪大	1		奈良県立大	2		福井大（医）	2
	京都教育大	1	7	帯広畜産大（獣医）	1		鳥取大	2
	大阪教育大	1		滋賀大	1	8	北海道大	1
	奈良教育大	1		信州大	1		東京農工大	1
	奈良県立医大　等	1		愛媛大　等	1		九州大　等	1
	合計実人数	30		合計実人数	35		合計実人数	41
	うち現役実人数	26		うち現役実人数	29		うち現役実人数	28
国公立型クラス現役生数		126	国公立型クラス現役生数		148	国公立型クラス現役生数		126

①国立大 19 名（うち現役 16 名）　②公立大 11 名（うち現役 10 名）

【平成 31 年度～令和 3 年度の国公立大学合格状況　比較】

＊現役・過年度生を合わせた大学別合格者実人数

2）私立 4 年制大学　大学別合格者実人数 715 名（うち現役 662 名）卒業生 549 名

＊（昨年度 832 名　うち現役 737 名）卒業生 637 名

【平成 31 年度から令和 3 年度の私立大学現役合格者 Best20　過年度比較】

私立大学現役合格者　＊現役生のみの大学別合格実人数で比較								
令和 3 年度			令和 2 年度			H31 年度		
卒業生数　549 名			卒業生数　637 名			卒業生数　660 名		
1	近畿大	75 人	1	近畿大	79 人	1	近畿大	60 人
2	摂南大	63	2	摂南大	61	2	摂南大	52
3	龍谷大	53	3	関西大	46	3	関西大	43
4	関西大	51	4	龍谷大	53	4	龍谷大	38
5	大阪工大	32	5	大阪工業大	28	5	追手門学院大	26
	追手門学院大	32	6	桃山学院大	27	6	大阪経済大	24
7	桃山学院大	22	7	京都産業大	22	7	桃山学院大	21
8	同志社大	20	8	神戸学院大	19	8	甲南女子大	19
9	武庫川女子大	18	9	立命館大	18		帝塚山大	19
10	甲南大	16	10	同志社大	17	10	大阪工業大	18
11	京都産業大	15		甲南大	17		関西外国語大	18
11	畿央大	15	12	追手門学院大	16	12	大阪産業大	17
13	大阪電気通信大	14	13	大阪芸術大	15	13	甲南大	17
14	大和大	12		甲南女子大	15	14	京都産業大	16
15	大阪経大	11		武庫川女子大	15	15	武庫川女子大	14
	関西外大	11	16	大阪経済大	14	16	大阪電気通信大	13
17	立命館大	10	17	同志社女子大	12	17	同志社女子大	12
	京都女子大	10		佛教大	12		阪南大	12
19	関西学院大	9		大阪電気通信大	12		畿央大	12
20	同志社女子大	8		関西外国語大	12	20	大阪芸術大	11
	大阪産大　等	8	21	関西学院大 等	11		四天王寺大･大和大	11
	合計実人数	662		合計実人数	737		合計実人数	705
	卒業生数	549		卒業生数	637		卒業生数	660

参考：連携・指定校制推薦入試「被推薦者」数の推移

年度	共学	合計	%	文系	%	理系	%
R3	9 期	213	53.1	130	52.2	83	54.6
R2	8 期	229	50.2	151	50.2	78	50.3
H31	7 期	180	35.9	138	36.0	42	35.6
H30	6 期	193	39.3	137	40.2	56	37.3
H29	5 期	154	30.3				
H28	4 期	126	24.6				
H27	3 期	157	28.9				
H26	2 期	160	32.4				
H25	1 期	204	29.8				

＊%はプレップ・6 ヵ年プレップの合計在籍人数に対する割合。

3）私立短期大学合格者　16 名（うち現役 13 名）

私立短期大学合格者　＊合格者であり進学者ではない		
令和 3 年度	令和 2 年度	平成 31 年度
17	16	31
うち現役 15	13	28

4）専門学校合格者　41 名（うち現役 39）

専門学校合格者　＊合格者であり進学者ではない		
令和 2 年度	令和 2 年度	平成 31 年度
22	41	46
うち現役 20	39	44

5. 進学・勉学に関する進路指導部の主な事業報告

＊本年度も、あらゆる事業が「新型コロナウイルス感染拡大」の影響を受けた。

1）①河合塾「全統模試」は昨年度同様、公開会場での実施が困難なものもあったため、国公立コース担当者によって校内での実施となった。

②高校各学年の「進路オリエンテーション」「進路説明会」は講堂に一部クラスの生徒、残りはライブ配信して教室での視聴とした。また保護者には録画の動画配信を行った。

③主な連携大学の指定校制推薦入試の「夏期必修プログラム」が昨年同様、中止となった。また一部の大学はオンラインで実施した。

2）卒業生執筆による「合格体験記―後輩につなぐ言葉―」を発刊。高 1・高 2・高 3 生の進路 HR 等の教材として活用した。

3）放課後の学習支援事業「U ゼミ」が開講 8 年目となった。中 3 生徒対象「高校進学準備講座」は個別

指導のため前期は不開講としたが、高校生対象の講座については前後期とも 1 年を通じて予定通り実施した。ただ、学年閉鎖や学級閉鎖等の影響により、振替授業が日程的にできない講座が一部存在し返金による対応となった。

4）U ゼミの「英検合格講座」は中 1 から高 3 までの希望者を対象として、土曜日放課後に通年で 3 期に分けて開講した。

5)「オンライン英会話」は事業者を「㈱スクール TOMAS」から「(株) ノバホールディングス」に変更し、今年度から新たに募集する形で開講した。中 1 から高 3 までの希望者を対象として、前期 24 名、後期 41 名の生徒が受講した。

6)「夏期講座」は高校（前期 7/28～31，後期 8/2～5)、中学（7/29～31）で実施した。3 年ぶりの実施となったが、予想を大きく超える受講希望者が出たため、多くの講座で抽選となり、特に高 1 では受講できない生徒が多くでることとなった。

7)「連携・指定校制推薦入試」に合格の高 3 生徒に、本年度は以下のプログラムを実施した。

①「連携大学の先生による入学前特別講義」

連携協定を締結している甲南大学経済学部の教授 2 名による「大学での学びについての講義」と「レポートの書き方の実践演習と添削指導」を 2 日間の午前中で実施した。

②「エンパワーメントプログラム」

本年度は令和 4 年 2 月 14 日～19 日に実施。参加生徒 227 名を前半 115 名、後半 112 名に分け、更にその中で会場を 2 か所に分けた。本年度は、昨年に引き続き上宮太子高校の参加がなかった。17 ヵ国 19 名の国際学生と外国人ファシリテーター（2 名）が来校して、本校生徒の指導にあたった。

本年度も新型コロナウイルス感染拡大の状況下で、感染を防止するために、以下の配慮を講じて実施した。

・「ホームステイ」受け入れの中止。
・生徒は毎朝の検温を欠かさず、当日に体温が 37.5℃を超えた時など体調が優れない場合は無理に登校しない。
・マスクは必ず飛沫防止効果の高い「不織布製マスク」を着用させる。
・会場での講師と生徒、また生徒の座席を空けて距離を教室以上に十分にとる。
　＊机の配置を「V 字」・「L 字」型に配置して正対面にならないように工夫した。
・手指消毒用に出入口、および各グループの机ごとに消毒液ボトルを設置。
・文房具・ドアノブ・机等の消毒。
・約 1 時間ごとの会場の換気。および通気に配慮する。

また、エンパワーメントプログラムのスタッフについても、

・国際学生（留学生）は元々日本の大学に留学している国内在住の学生から選抜。
・近隣の府県の国際学生を優先的に手配する。
・プログラム開始前 3 週間以内に渡航歴がないこと。
・プログラムの開始 2 週間前から毎朝の検温を義務付け、うち 2 日以上微熱（37.5℃以上）

あれば不参加とし、メンバーの交代を行う。
・マスクの着用。毎日の検温の実施。手指消毒・うがいの励行を指導。
・グループワークでは距離を十分に保ち、握手、ハイタッチ、ハグは禁止する。
・食事中における本校生徒との交流は禁止し、講師控室の自席で食べてもらう。

等の感染対策と指導を徹底して実施した。ただ、前半参加の生徒で 1 日目参加、2 日目発熱のため欠席、3 日目の朝に陽性が判明したものが出たため、陽性者と同じグループの生徒を濃厚接触者として帰宅させた。尚、同グループでのちに感染が確認された生徒はいなかった。

3.上宮学園中学校

【基本データ】
生徒数（年初数）
1 年生　107 名、4 クラス、
2 年生　111 名、3 クラス、
3 年生　　98 名、3 クラス、
合計 316 名、10 クラス、男子 229 名、女子 87 名、男女比 72：28

転退学者等
2 年生　転学者 3 名(男子 3 名)
3 年生　転学者 1 名(男子 1 名)

転入者
2 年生　転学者 1 名(男子)
教員数
合計 149 名
専任教諭 65 名、常勤教諭 16 名、常勤講師 11 名、非常勤講師 57 名

ｉ広報
〇入試結果（2022 年度より入試の名称を変更）
１次（一般学力午前・適性検査・自己アピール・一般学力午後）2 次（一般学力 2 次）の全体で
志願者数 380 名　受験者数 362 名　合格者数 317 名　入学者数 107 名
【内訳】
1 次　一般学力午前　　：志願者数 103 名　　入学者数 76 名
1 次　一般学力午後　　：志願者数 132 名　　入学者数 14 名
2 次　一般学力 2 次　　：志願者数 132 名　　入学者数 16 名
適性検査　　：志願者数 13 名　　入学者数 1 名
自己アピール　　：志願者数 0 名、　　入学者数 0 名
「コロナ・インフルエンザによる追試」　　受験生　0 名

＊前年度（2021 年度）入試結果
1 次・2 次一般学力型、適性検査型、自己アピール型の全体で、
志願者数 356 名　受験者数 345 名　合格者数 295 名　入学者数 107 名

【内訳】

1 次一般学力型 A	：志願者数 92 名	入学者数 75 名
1 次一般学力型 B	：志願者数 120 名	入学者数 16 名
2 次一般学力型	：志願者数 121 名	入学者数 11 名
適性検査型	：志願者数 22 名	入学者数 4 名
自己アピール型	：志願者数 1 名	入学者数 1 名

〇2022 年度入試説明会・プレテスト
説明会を 4 回実施。参加組数は 426 組と前年度より 20 組ほど増となりました。
今年度も公開授業見学会は実施せず、校内見学会を 4 回実施。
2 回実施のプレテストは一般学力 457 名、適性検査 232 名。

＊2021 年度入試説明会・プレテスト
説明会（4 回）407 組
プレテスト（2 回）一般学力型 441 名、適性検査型 261 名

〇私学展について
高校の記載内容と同じ（3 日間で　中学受験の相談は 24 名）

〇塾対象説明会について
（高校の記載内容と同じ）

〇中学校　入試対策部総括
中学入試は、適性検査・自己アピールの成果があまり出ていないように感じており、それに代わる英語入試などの新しいタイプの入試を今後検討する必要がある。
また、塾の先生方に新校舎になってから一度も見学をしていただけていない状況が続いているため、学校の雰囲気を直に見ていただき塾生に伝えてために、塾対象説明会をホテルでの実施から 2022 年度は自校での実施予定。（経費削減にもつながる）
昨年度と同様コロナウイルス感染症の影響に伴い、塾訪問など例年通りの対応が出来なかった。

ⅱ．教務関係
(1) 学校評価の総括から　（　）内は自己評価
① 日々の行事運営　（B）
② 教務係との業務の連携、運営　（B）
③ 教員間の情報の共有・連携　（A）
④ 中高教務の連携　（B）
⑤ 会議や連絡会について　（B）
⑥ 教務会の円滑な進行について　（A）
⑦ 六カ年を見据えた教育の充実　（B）
⑧ 校外学習及び総合学習の充実と積極的な取り組み　（B）
⑨ 上宮学園中学入試の実施と諸問題の検討　（B）
⑩ 保護者会との協力　（C）

⑪　部活動の充実に繋がる取り組み　（B）

〇総括

令和３年度はコロナ禍ではあったが、去年よりは学校行事を進めることができたと思う。今年度も募集人数を超える（107 名）新入生が入学しが、女子生徒の数も年々増えていき、1 クラスに在籍する女子生徒の割合も多くなっている。4 月、5 月はコロナの感染状況が悪く、いくつかの行事が中止、延期となった、今年も去年同様、説明会や懇親会、授業参観等が中止や規模を縮小して実施したため、保護者との距離が例年よりは遠く感じた。ただ心配した程、大きな事故もなく、順調に終えることが出来たと思う。去年は中止になったが、夏期休暇に入ってすぐに行われえた、学習強化プログラム（全学年)、国外研修に代わる国内研修、芸術鑑賞は何とか実施することができた。そこに関しては、生徒にとって、心身とも充実した日々が送れたと思う。しかし、感染状況が悪く、1・2 年合同スキー実習や 1 年生の冒険教室などが中止となり、生徒たちにとっては残念な結果となった。令和３年度もまだコロナ禍の影響はぬぐい切れないとこがあると思うが、感染予防を徹底しながら、少しでも行事を行い、生徒のために、学校行事の充実を考えていきたい。　ただ、教員の働き方改革に伴い、勤務時間と学校行事（宿泊が伴うもの）の両立を考えていきたいと思う。

勉学面においても、英語科が中心となり、ネイティブ授業の改革、英語暗唱大会、英検の年３回の校内実施など、着実に生徒の英語能力が上がっていると思う。また、今年度大学入試において、一貫生から現役で大阪大学合格者が出たことは、6 年間生徒に携わって頂いた先生方のお陰だと思う。先生方もこれは良い励みになったと思う。と同時に、生徒の学力がますます向上すよう、有効な施策を考えていく必要があると思う。

(2) 祖山参拝、勉強合宿、芸術鑑賞

①中 1、中 2（去年実施できなかったため）は祖山参拝を 4 月に規模を縮小して実施。

②中1、中2、中3が行う夏期勉強合宿（2泊3日）は宿泊をやめ、校内で勉強合宿と同じ趣旨で 3 日間実施。

③　7 月に全学年が梅田芸術劇場へミュージカル「ロミオとジュリエット」を鑑賞。

(3) 中 3 海外研修旅行（国内研修に変更）

今年度も、シンガポール・マレーシアで実施予定であったが、コロナ禍のため、国内研修に変更した。国内研修は 3 月に岡山県、香川県で実施予定した。また法然上人ゆかりの法然寺にも参拝させていただいた。

(4) スキー実習

中 1、中 2 の全員が例年通り、志賀高原スキー場にて 3 泊 4 日で実施する予定であったが、コロナ禍の影響で中止となった。

(5) 上記以外の行事

①中 1：5 月に冒険教育（神戸鈴蘭台スカイアドベンチャー、日帰り）は中止
　　司馬遼太郎記念館見学及び館内の清掃活動

②中 2：5 月に和歌山県日置川町における民泊（2 泊 3 日）は中止
　　12 月に思春期教室は例年であればバルナバ病院で実施していたが、
　　コロナ禍のため、病院より学校へ講師が出張していただき、講堂で行った。

③各学年主導の校外学習

1年：司馬遼太郎記念館は時期を変更し、2月に実施。

10月に民族博物館での研修を実施。

近大英語村（新型コロナウィルス感染の影響の為中止）

2年：上町台地において班別自主研修は時期を変更し、3月に実施。

10月に近ツ飛鳥での研修及び、清掃活動の実施。

近大英語村（新型コロナウィルス感染の影響の為中止）

3年：海外研修旅行（国内研修へ変更）の事前学習として、ECC英語学院でグローバル体験を実施。

ライフプラニング授業（ソニー生命の監修による）は中止

ⅲ．課外活動関係（全国大会以上を記載）

◎ソフトテニス部

・全国中学校ソフトテニス大会出場　　団体戦ベスト8

・個人戦　　1ペアーがベスト16

◎卓球部

・全国中学校卓球大会出場　　団体戦優秀12校入賞

個人戦4人が出場

1人がベスト16

・全日本卓球選手権大会出場（高2生までが出場できるジュニアの部）

個人戦2人が出場

1人がベスト16

◎柔道部

・全国中学校柔道大会出場　　団体戦出場

〇総括

中学入試は、適性検査・自己アピールの成果があまり出ていないように感じており、それに代わる英語入試などの新しいタイプの入試を今後検討する必要がある。

また、塾の先生方に新校舎になってから一度も見学をしていただけていない状況が続いているため、学校の雰囲気を直に見ていただき塾生に伝えてために、塾対象説明会をホテルでの実施から2022年度は自校での実施予定。（経費削減にもつながる）

昨年度と同様コロナウイルス感染症の影響に伴い、塾訪問など例年通りの対応が出来なかった。

4.事務局　管財部管財係

本年度は、南キャンパス保守管理、北キャンパス残存校舎の維持確保、既存校舎の省エネルギー化を中心に補修工事を実施致しました。
また、太子高等学校校舎の維持、野球場・クラブ棟の安全確保の為、補修・改修工事を実施致しました。

1－総合体育館アリーナ床ライン改修工事	2，178，000 円
2－北館・Ａ館・Ｂ館ＬＥＤ化工事	7，810，000 円
3－総合体育館アリーナ天井耐震調査	990，000 円
4－太子高等学校校舎外装タイル補修１期工事	16，280，000 円
5－野球場外野フェンス更新	4，488，000 円
6－太子クラブ棟災害対策応急補修	1，336，000 円
合計金額	33，082，000 円

5. 上宮太子高等学校

ⅰ 執行部関係

校　　長	寺澤 久弥	生徒指導部長	米田 文昭
教　　頭	渕　昭嘉	進路指導部長	漁野 篤史
教務部長	田中 良和	入試対策部長	佐々木哲也

【基礎データー】

生徒数（年初数）

1 年生　153名　4クラス　クラス平均生徒数 38.3名

2 年生　184名　5クラス　クラス平均生徒数 36.8名

3 年生　178名　5クラス　クラス平均生徒数 35.6名

合　計　515名　14クラス　男子 328名　女子 187名　男女比 64:36

転退学者等

1 年生　退学者0名

2 年生　退学者1名（男子1名・女子0名）　転学者3名（男子1名・女子2名）

3 年生　退学者0名

合　計　退学者1名（男子1名・女子0名）　転学者3名（男子1名・女子2名）

※昨年度比−7名　全生徒に対する割合は 0.8%

教員数

合 計　65名

専任教諭　25名　常勤教諭 13名　常勤依託（ALT）1名　非常勤講師 26名

ⅱ 広報関係

① 学校説明会等行事

行事名	実施日	参加組数	増減
UTフェスタⅠ（オープンキャンパス）	9月11 日（土）	116組	+127
UTフェスタⅡ（オープンキャンパス）	10月30日（土）	114組	
UTフェスタⅢ（オープンキャンパス）	11月20日（土）	138組	
第1回入試説明会	10 月 9日（土）	51組	−11組
第2回入試説明会	11月　3日（祝水）	85組	−82組
第3回入試説明会	12 月　4 日（土）	163組	+4組
直前対策入試説明会	12 月 13 日（日）	170組	+3組
合 計		837組	+41組

〇総評

・UTフェスタ（オープンキャンパス）については、昨年1回の実施を3回に増やし、クラブ体験及び授業体験が出来る機会を設けた。第1回は、緊急事態宣言下のため、クラブ見学のみとなったが、各クラブが趣向を凝らした内容を企画し、本校の様子を知ってもらう入試イベントとしては良かったと思われる。

・コロナ禍においての説明会であったが、内容においては、各教科からの説明も創意工夫がなされて充実したものといえる。学校見学では、在校生の協力を得て、「学校見学ツアー」を実施した。特に生徒会生徒やクラブ生、有志の係生徒の協力のもと、参加者と在校生との関わりを深め、説明会でも生徒の生の声を届ける等上宮太子の魅力を伝えるように努めた。受験生や保護者の反応が良く、説明会等の継続率が上がった。

・全ての入試関連のイベントにおいては、感染予防を最善に留意し、実施回数を増やすことやオンライン配信等、社会情勢に応じた形での実施となった。その甲斐があって全体としては参加者人数が増加傾向にある。また生徒・教職員の丁寧な対応で参加者の満足度は高いと思われる。

〇今後について

・オープンキャンパスは昨年同様に3回実施をし、本校に来校し、在校生及び教職員と関わる機会を作る。

・内容については、年々充実したものになっている。今後、より生徒を全面に押し出せるような工夫を凝らしたい。

・様々なイベント案内をSNSツール（Web、インスタ等）の活用により、参加組数を増やす工夫をしていきたい。

② 塾対象説明会・中学校対象説明会

	実施日	参加塾数	増減
塾対象入試説明会	7月2日（金）	33塾	−36塾
中学校対象説明会	8月27日（金）	11校	+3校

〇総評

・塾対象説明会では、上宮太子を御贔屓にしてくださる塾の参加が多くなる為、参加者の雰囲気は良いものであった。コロナ対策として、多目的教室の密を避けるために参加人数を72名までに制限し、オンラインでの中継も行った。説明会の内容としても本校の売りである生徒の様子を紹介しやすいので、その分でも好評であった。コロナ禍の影響もあり、今年度の参加者数は、昨年を下回る結果となった。

・中学校対象説明会は今年度、オンラインのみで実施した。参加校を増やすため、説明会後半には株式会社アプリスの紹介で高校入試の動向や、生徒の生きる力の育成に向けた教育講演会を行った。本校の魅力や雰囲気を感じてもらうのはやはり来校してもらうことが望ましいので、現状の参加校数から考えて実施の可否も含めて次年度は検討したい。

・参加された先生方に対してアンケートを実施し、説明会の内容や学校に対するご意見を多数頂戴した。満足度は高く、今後も上宮太子を勧めたいとの意見が多かった。

〇今後について

・参加された先生方からの意見として「生徒や学校の様子を見たい」との声が多いので、授業との兼ね合いも調整しながら生徒をうまく登場させる内容や授業見学等を今後、盛り込んでいきたい。

・実施時期については、学園の状況や受験市場の情勢を鑑み、臨機に対応していく。

・3年に1度の割合で参加塾の裾野を広げるためにホテルやホールにて実施している。参加塾数を考えるとホテルやホールでの実施が望ましいが、コロナ禍では実施が厳しく、また多くの人が集まるイベントは自粛傾向にある。今後も状況に応じて実施場所を検討していきたい。

③　私学展

	実施日	参加塾数	増　減
私学展	8 月 13日（金）～15日（日）	75組	±0組

〇総評

・コロナ禍での実施のため、参加者は時間制限及び人数制限の中での実施であった。このような状況での実施のため、例年より参加組数は減少した。

・私学展はブースの見た目がかなり集客に影響するが、映像モニターを使った統一感のあるブースを作ったこともあり、ブースに座らなくとも受験生の目には上宮太子が印象に残ったのではないかと思われる。ただソーシャルディスタンスをとった上でアクリル板越しかつ、時短説明が求められたため、離れた距離感でどこまで参加者の心を掴めたのかわからない状態であった。

〇今後について

・より目に留まりやすいブースを作ることが大切であるので、次年度はICTツールをさらに活用したい考えている。

・資料コーナーを訪れる受験生が多いので、資料コーナーからブースに導く方法を検討する。

ⅲ 進路関係

【大学合格者数】

卒業者数が 10 名減少したにもかかわらず、全体の合格数は 26 増加した。

今年度のべ 519（卒業者数 178 名）、昨年度のべ 493（卒業者数 188 名）

〇国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格数は同水準であったが、国立大の合格者は増加した。

国公立大学合格者数：今年度 18（現役 17・過年度 1）うち、国立大12（現役 11・過年度1）

昨年度 18（現役 17・過年度 1）うち、国立大10（現役　9・過年度1）

今年の卒業生は、2年次までの成績が芳しくない学年で、4月当初の予想は現役9、目標は現役16以上であったが、盛り返して目標に達することができた。国公立大合格数は4年連続で特進コースの人数の半数を超えており、おおむね満足できる結果であったと言える。

〇私立大学（関西 8 私大）

昨年度入試と比較して、関関同立の合格数は7増加、産近甲龍の合格数は 8 増加した。その結果、関西 8 私大合わせた合格数は15増加した。

従来から言われている安全志向の生徒・保護者が目立ったものの、私大入試については上位層の生徒に意欲的な受験を促した結果、公募制・一般入試共に健闘してくれた。

関西 8 私大合格者数

今年度 123名（関西13・関西学院4・同志社1・立命館 1・京産12・近畿73・龍谷 19）

昨年度 108 名（関西 5・関西学院 4・立命館 3・京産 4・近畿 85・龍谷 7）

〇32期生の進学状況（卒業者数178名）

4 年制（6 年制）大学進学者数…156名　　短期大学・短期大学部進学者数…7 名

専門学校進学者数…10名　　留学…1名

進路未決定…4 名

（内訳：総合進学理系2名、特進文系2名　※特進の2名は、国公立大、私立大を合格したが再挑戦中）

現役合格率 98.8%（昨年度 98.9%）、現役進学率 97.7%（昨年度 97.8%）

連携・指定校推薦入試枠 665名分のうち、受験者数37名（総合進学コース在籍者の 25.0%）

※昨年度と比較して、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数は微減。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠636名分中、

利用者（受験者）数は44名（総合進学コース在籍者の 27.3%）

総合進学コース在籍生徒のうち、

4名（実数）が京都産業大学に学校推薦型（公募制）・一般選抜・スポーツ推薦で合格。

3名（実数）が近畿大学に学校推薦型（公募制）・一般選抜で合格。

2名（実数）が龍谷大学に一般選抜で合格。

（昨年度実績）総合進学コース在籍生徒のうち、

1 名（実数）が関西学院大学に一般入試で合格。

1名（実数）が京都産業大学に一般入試で合格。

7名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

1名（実数）が龍谷大学に一般入試で合格。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導LHRや総合的な探究の時間を通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースや特進Ⅱ類の生徒にも、大学入学共通テストの受験、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学をめざすように指導している。

加えて、今年度は教員側のスキルアップを大きなテーマとして、若手教員の授業改善、また、進路指導部と教科・学年との連携を密にする点を意識して取り組みたい。生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来を見据えた取り組みを、今後も継続していきたいと考えている。

〇次年度の取り組む内容（重点目標）

・特進Ⅱ類コースの飛躍、総合進学コースの学力向上のため、教科・学年との連携強化

・家庭学習の推進（スタディサプリの活用促進）

・模試の事前・事後指導

・教員研修の活性化による教員の意識改革および授業改善

■上宮太子高等学校　令和4年度入試　大学合格者数一覧（卒業者数178名）　【確定版】

国公立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
国立大学						
和歌山大	2	2	0	0	2	2
三重大	2	2	0	0	2	2
信州大	1	1	0	0	1	1
鳴門教育大	1	1	0	0	1	1
岡山大	1	1	0	0	1	1
高知大	1	1	0	0	1	1
山口大	1	1	0	0	1	1
九州工大	0	0	1	1	1	1
大分大	1	1	0	0	1	1
鹿児島大	1	1	0	0	1	1
国立大計	11	11	1	1	12	12
公立大学						
奈良県立大	1	1	0	0	1	1
公立鳥取環境大	2	2	0	0	2	2
高知県立大	2	2	0	0	2	2
はこだて未来大	1	1	0	0	1	1
公立大計	6	6	0	0	6	6
国公立大計	17	17	1	1	18	18

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
関関同立						
関西大	13	9	0	0	13	9
関西学院大	4	1	0	0	4	1
同志社大	1	1	0	0	1	1
立命館大	1	1	0	0	1	1
関関同立計	19	12	0	0	19	12
産近甲龍						
京都産業大	12	7	0	0	12	7
近畿大	73	28	0	0	73	28
龍谷大	19	11	0	0	19	11
産近甲龍計	104	46	0	0	104	46

私立短期大学						
短期大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
白鳳短	1	1	0	0	1	1
夕陽丘学園短	2	2	0	0	2	2
その他の短期大学等	2	2	0	0	2	2
短期大学計	5	5	0	0	5	5

専門学校等						
専門学校等名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
清恵会医療専	1	1	0	0	1	1
清恵会第二医療専	1	1	0	0	1	1
その他専門学校等	8	7	1	1	9	8
専門学校等計	10	9	1	1	11	10

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
その他の私立大学						
関西外国語大	8	4	0	0	8	4
京都外国語大	4	2	0	0	4	2
大阪経済大	5	3	0	0	5	3
大阪工業大	12	7	0	0	12	7
佛教大	2	2	0	0	2	2
畿央大	13	5	0	0	13	5
摂南大	59	22	0	0	59	22
神戸学院大	14	6	0	0	14	6
追手門学院大	5	3	0	0	5	3
桃山学院大	15	8	0	0	15	8
桃山学院教育大	1	1	0	0	1	1
大阪体育大	6	4	0	0	6	4
大和大	6	1	0	0	6	1
武庫川女子大	5	3	2	1	7	4
甲南女子大	7	2	0	0	7	2
神戸女子大	4	1	0	0	4	1
大阪女学院大	1	1	0	0	1	1
梅花女子大	7	2	0	0	7	2
森ノ宮医療大	3	3	0	0	3	3
兵庫医大	4	2	0	0	4	2
宝塚医療大	0	0	1	1	1	1
関西医療大	1	1	0	0	1	1
大阪青山大	1	1	0	0	1	1
大阪保健医療大	2	2	0	0	2	2
滋慶医療科学大	1	1	0	0	1	1
大阪河崎リハビリテーション大	1	1	0	0	1	1
天理医療大	1	1	0	0	1	1
藍野大	5	3	0	0	5	3
大阪芸術大	9	6	1	1	10	7
京都橘大	1	1	0	0	1	1
天理大	4	4	0	0	4	4
奈良大	1	1	0	0	1	1
帝塚山大	18	8	0	0	18	8
大阪産業大	25	10	0	0	25	10
大阪電気通信大	9	5	0	0	9	5
大阪成蹊大	2	2	0	0	2	2
大阪大谷大	8	8	0	0	8	8
四天王寺大	6	6	0	0	6	6
帝塚山学院大	1	1	0	0	1	1
阪南大	43	11	0	0	43	11
大阪学院大	1	1	0	0	1	1
大阪経済法科大	29	2	0	0	29	2
関西福祉科学大	10	6	0	0	10	6
大阪人間科学大	2	1	0	0	2	1
大阪総合保育大	1	1	0	0	1	1
太成学院大	1	1	0	0	1	1
びわこ成蹊大	4	2	0	0	4	2
日本大	1	1	0	0	1	1
桐朋学園大	4	1	0	0	4	1
東海大	0	0	1	1	1	1
広島工大	2	1	0	0	2	1
その他の私立大学計	375	172	5	4	380	176
私立大学計	503	235	5	4	508	239

iv 入試関係

	コース	募集人員	専・併	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
1次	特進Ⅰ類	約35	専願	男子 7 女子 6	13名	男子 7 女子 6	13名	男子 6 女子 5	11名	男子 6 女子 5	11名
			併願	男子 80 女子 67	147名	男子 80 女子 64	144名	男子 50 女子 44	94名	男子 3 女子 3	6名
	特進Ⅱ類	約35	専願	男子 25 女子 16	41名	男子 25 女子 16	41名	男子 18 女子 16	34名	男子 18 女子 16	34名
			併願	男子 66 女子 52	118名	男子 64 女子 49	113名	男子 60(13) 女子 51(12)	124名 廻し25名含む	男子 1(1) 女子 3	4名
	総合進学	約105	専願	男子 71 女子 45	116名	男子 71 女子 45	116名	男子 78(7) 女子 46(1)	124名 廻し8名含む	男子 78(7) 女子 46(1)	124名 廻し8名含む
			併願	男子 61 女子 61	122名	男子 60 女子 61	121名	男子 93(34) 女子 78(18)	171名 廻し52名含む	男子 9(3) 女子 7(2)	16名 廻し5名含む

●令和4年度入学生（35期生） 197名（男子 116名 ・ 女子 81名）

※上宮学園中学２名を含む（特進Ⅰ類 1名 ・ 総合進学 1名）

【3年間の受験者数】

☆2020

	専願	併願
特Ⅰ	35	178
特Ⅱ	56	81
総合	49	68
計	140	327
	467	

☆2021

	専願	併願
特Ⅰ	19	196
特Ⅱ	38	92
総合	66	89
計	123	377
	500	

☆2022

	専願	併願
特Ⅰ	14	154
特Ⅱ	39	115
総合	117	123
計	170	392
	562	

【入試方法の変更 「高得点科目重視型」】

全コース【専願】受験者に、当日の受験科目のうち最も高得点の科目の配点を高くする「高得点科目重視型」の入試方法を採用します。自分の得意科目を活かすことができる。

＜特進Ⅰ類・特進Ⅱ類＞ ⇒ 受験科目（5教科）のうち最も高得点の科目を2倍にし、
5教科合計600点満点を500点満点に換算して合否判定を行う。

＜総　合　進　学＞ ⇒ 受験科目（3教科）のうち最も高得点の科目を2倍にし、理科・社会の評定点数化（各50点）を加えた5教科合計を500点満点に換算して合否判定を行う

「英語・みなし点制度」 ⇒ 全コース【専願・併願】受験者に、英語については、「英語検定」3級以上の合格者を対象に「みなし点制度」を採用します。入学試験当日の得点と比較し、高い方の得点を採用する。

〇入試関係総評

・2021 年度入試に於いては、コロナ禍の影響により、外部説明会の回数が少なかったため、上宮太子を訪れる保護者・生徒数が減少したことや、南河内地区における人口の減少、特進Ⅰ類コースの学力層における国公立大学離れが影響をしていたと思われる。

・2022 年度入試に於いては、コロナ禍ではあったが、人数制限をしながらでも何とか外部説明会が開催されたので、多くの保護者・生徒に話をすることが出来、上宮太子に訪れる人数も増やすことが出来た。特に入試説明会の回数を増やしたことと、学校見学に来てくれた生徒数が多かったことが影響している。ただ、特進Ⅰ類コースの専願数については減少が続いており、今年度の特待生は0人である。

・併願の戻り率については、奈良県の公立では、ほぼ全入状態で、南河内地区においても、河南で 11 人、狭山で 18 人しか落ちないので、全体で戻り率7%とかなり低くなった。
・昨年と比較して、上宮太子としては、校舎や施設、コース、制服などについては、何かが変わったということは無いが、入試制度とラインについては大きな変化であった。

・全専願コースの高得点科目重視型や、総合進学コース専願の3教科受験方式を取り入れたことで、上宮太子が何か変わろうとしているのが広まったことと、特にラインを下げたことにより、受験しやすくなったことで総合進学コースの専願者が増えたと思われる。

〇今後について

・中学訪問においては、上宮太子の学校紹介 VTR を CD にして持参し、生徒たちに見て頂くようにお願いする。特に送ってくれた高Ⅰ生たちの元気そうな写真を持参し、廊下に掲示してもらい後輩たちがいつでも見れるようにする。
塾も含めて、普段の訪問では、送ってくれた生徒の日々の様子や、定期考査等の成績について詳細に伝えることで、送ってくれた生徒たちをきっちり見ていることをアピールする。3学期には、送ってくれた生徒たちの進学先を伝えることで、安心して上宮太子を勧めてもらえるようにする。

・校外で知り得た情報を定期的に校内の先生方へ伝え情報の共有化を徹底する。

・外部説明会では、広報費に限りがあるが、できるだけ多くの説明会に参加させてもらい、保護者には、上宮太子での生活面や進路指導面についての面倒見の良さをアピールし、安心して預けてもらえるようにする。生徒には、上宮太子での高校生活の楽しさや、充実した行事や取り組み、豊富な指定校数をアピールすることで興味を持ってもらい、学校見学やオープンキャンパス、入試説明会に来てもらえるように勧める。

・オープンキャンパスに来た生徒に対して、クラブ生からのお礼の手紙や、体験の様子を写真に撮って後日送ることができたら、上宮太子をもっと身近に感じてくれると思われるので教務・生徒会と連携して企画をする。

・中学や塾では、学校および教室ごとに保護者・生徒対象の説明会を開催したり、新たに説明会や、出張授業や学校見学を開催するところもある。その中に是非とも上宮太子を呼んでもらえるようにお願いをする。

・昨年同様に、土曜日の Zoom による online 説明会を開催し、申込者にはできるだけ電話をして、学校訪問に切り替えてもらえるよう勧める。

・高校生の様子を、中学生はインスタや YouTube などでよく見ている。スマホをどう利用すれば効率的に学校の良さを届けることが出来るかを考える。

・上宮太子に興味を持ってもらうためには、効果的な広報物が必要である。HP、パンフレット、リーフレットなどを広報と連携して制作し募集活動に有効利用する。

・四天王寺東では、2021 年度入試で専願者が増えたが、2022 年度入試においては 専願者がかなりの減少となり、初芝富田林などは、昔のラインに戻すために+40 としたために 2022 年度入試では受験者数が激減した。昨年は、上宮太子も変化を感じてもらったことで入学者数が 197 人となったが、次も同じようにいくとは限らない。重点地域を中心に手厚く訪問することが大事となる。

v 施設等整備関係

・体育館の空調整備　・トイレ、エントランスの整備

・本館校舎の外壁工事（1 期分 / 4 期分）

iv 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月末までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10 月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。

授業アンケートについては、11 月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。 前年度の総括の学校関係者評価委員会はコロナの状況により、資料郵送の上、承認を頂くという形式で実施をした。

② 高大連携

〇現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部に、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

〇今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ本校としても長期間に渡り、責任ある関係を保つことができる大学に絞って今後の高大連携を考えていく。

③ 教職員研修会

コロナ禍による度重なる行事の変更、また感染症予防の観点から、昨年度は外部講師を招いての教職員研修会は実施出来ていない。ただ、校内研修として、7月にICT教育推進室が中心となり、Google Classroom 等の ICT 教育の教授法に関する校内研修を行い、全教員が研鑽を積んだ。

④ 特筆すべき行事

【海外語学研修】

新型コロナウイルス感染拡大を受け、全ての海外語学研修は中止となった。例年であれば以下の語学研修を実施している。

<イギリス語学研修（ACEプログラム）>7月下旬～8月上旬　対象:1～3年生 希望制

資格あり、国際感覚の習得、プレゼンテーション

スキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。参加資格は英検2級1次試験合格以上。基準にクリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加者には 10 時間以上のネイティブ講習会等を実施する。

<カナダ語学研修>7月下旬～8月中旬　対象:1～3年生 希望制

自然豊かな風土と治安の良さ、また教育水準の高さから注目が高いカナダは、英語だけでなくフランス語も公用語として使用されているため、欧米の2つの雰囲気の中で異文化を体験できる語学研修である。

<ニュージーランド ターム留学>7月下旬～9月下旬　対象：1～3年生 希望者

9週間の海外滞在を通して、親元を離れ、現地校での授業はもちろん、世界をより深く知る機会になると同時に、日本や自分自身のことについても改めて考えることが出来る素晴らしい機会となることを目的としている。

<ニュージーランド語学研修>3月下旬～4月上旬　対象：1～2年生 希望者

【修学旅行】

第2年生の修学旅行は当初12月上旬にドイツ方面を予定していたが、コロナの影響により国内に行先が変更となった。コロナ禍で予断を許さない中ではあったが、12月5日（日）～9日（月）の4泊5日の行程で北海道方面（函館・札幌・小樽・旭川）への修学旅行を無事に実施できた。

【聖徳書道展】

令和3年度で第14回の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町、太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、令和2年度は約 4000 点の応募作品を得た。今年度は1日型で 10 月3日（日）に開催し、658名（+145名）の参加があった。なお例年実施している「書のパフォーマンス」と「表彰式」は密を避けるため、各教室にオンライン配信を行なった。

vii 課外活動関係

① 課外活動のあり方について

運動部：11、文化部：10、同好会：1（令和4年3月現在）

約8割の生徒がクラブに所属(79.4%)し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切にし、礼儀や挨拶等を含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化もねらいとしている。

② 新規クラブ発足等の動きについて

令和4年 3月末をもって、コーラス同好会は吹奏楽部と合併し「吹奏楽・コーラス部」として活動する。

③部活動の主な成績

書道部

「第55回記念高野山競書大会」<金剛峯寺賞> 三嶋 美月（3年）

<高野山管長賞>三嶋 柚心（2年）

<毎日新聞社賞>尾山 歩香（1年）

「第 30 回国際高校生選抜書展」<秀作賞>三嶋 柚心（2年）

総合探究部

「第45回全国高校総合文化祭」囲碁部門 大阪府代表団体戦 選抜出場　神鳥 鷹太（2年）

「第41回近畿高校囲碁選手権」4位　神鳥 鷹太（2年）

「第42回大阪府高校芸文祭」囲碁部門 優勝　神鳥 鷹太（2年）

「第30回全国高校文化連盟将棋新人大会」大阪府女子予選 A 級準優勝　岡野 愛里（2年）

ダンス部
「全国高校ダンスドリル選手権大会」関西大会　3位

硬式野球部
「秋季近畿地区高等学校野球大会　大阪府予選」ベスト8

サッカー部
「大阪私立高校総体」ベスト16

陸上競技部
「大阪高校第三・四地区夏季陸上競技大会」女子砲丸投げ　5位　髙﨑　鞠華　（2年）

硬式テニス部
「第15回第3学区テニストーナメント」（団体）予選ブロック優勝

バレーボール部
「大阪高校新人大会（部別大会）」3部優勝

美術部
「第70回大阪私学美術展」奨励賞

viii　防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供等、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

（備蓄品内容　一人分）
エマージョンクッキー2日分　おいしいごはん2日分　レスキューシート
飲料水500ml2本　簡易トイレカプセル5回分　小箱

ix その他

①体育大会は新型コロナウイルス感染拡大のため、開催を中止した。

高1・2学年は、学年での球技大会として、ラウンドワンでボーリング大会を開催した。

高3学年は、校内のグラウンド及び体育館にて球技大会を実施した。

上宮祭（文化祭）は、昨年同様フェニーチェ堺にて、文化部の発表に加え、チーム対抗（1・2年）で映像を作成し、各学年の1位を決めた。

各学年の球技大会および上宮祭での合計得点で、今年度の総合優勝を決めた。

②生徒を主体とした委員会活動の推進を行っている。

（令和3年度の活動実績）

保健委員会・整美委員会　昼休み・放課後の消毒作業、消毒のよびかけ

風紀委員会　　登校時のあいさつ運動

新聞委員会　　上宮太子ニュースの原稿執筆

放送委員会　　昼休みの放送

図書委員会　　図書室の運営（貸し借り手続き、図書整理など）